

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づいてグループホームとしての理念がある。職員は念頭に置いて実践する努力をしている。	法人理念、ホーム独自の理念は来訪者の目にもふれるよう玄関に掲示し、支援方針を明確にしている。コロナ禍であるがホーム内で出来ることを充実し、職員と共に楽しい日々を送ることを目標に支援に当たっている。家族に対しては利用契約時に支援方針について説明している。ベテラン職員が多く理念の持つ意味をよく理解し日々の支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で法人の指針による制限があり、地域やボランティアとの交流は出来なかった。	開設以来自治会費を納め地域の一員として活動している。毎年、地区の文化祭には作品を出品し見学にも出掛けていた。この2年間は新型コロナの影響を受け中止が続き残念であるが再開後はまた積極的に参加する予定である。更に、保育園、小学校、中学校との交流活動についてもコロナ収束後の再開を楽しみにしている。合わせて、当ホームOBボランティアとの交流再開も心待ちにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方(独居高齢者)の依頼があり、落ち葉拾いや掃除を行っている。害虫駆除も行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で対面の会議は出来ないため、利用者の状況やGHの活動報告は書面を作成して、お渡しした。(年6回)	令和2年3月～令和3年9月までの期間は新型コロナの影響を受け書面での開催となり状況報告等をお届けしていたが、感染状況の落ち着きを受け11月より対面での会議を開催している。家族代表、自治会長、地域代表、市高齢者介護課職員、民生委員、ホーム関係者の出席で年6回開催している。利用状況、活動報告、職員活動報告、意見交換等を行いサービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	上田市高齢者介護課支援担当者に運営推進委員のメンバーになって頂いている。サービス向上を目指して、相談や助言を頂いている。	市高齢者介護課と連携を取り、入居状況、事故報告、コロナ感染対策等、電話や対面で相談し、助言を頂いている。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪しケアマネジャーが対応して行っている。現在はコロナの影響を受け市の介護相談員の来訪は自粛状況が続いているが、収束後の再開を心待ちにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修を行っている。(年2回)職員同士でケアに対しての検討を行い、身体拘束をしない方法を考えている。	方針として拘束のないケアに取り組んでいる。ホームの周りは坂道もあり安全確保のため玄関は施錠されている。入居1年以内の利用者もあり、帰宅願望の強い方が数名いるが、寄り添い、話をすることで対応している。日中は職員がホールと事務スペースにいるよう心掛け、きめ細かな所在確認に繋げている。毎日、転倒予防体操を行っていることが体力の維持に繋がり、センサー類を使用している方は「ゼロ」という状況が続いている。3ヶ月に1回身体拘束適正化委員会を開き、拘束に対する意識を高め支援に当たっている。	

グループホームにしうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について研修を行っている。(年2回)職員は自らの行動を振り返りながら、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者がおり、制度について職員間で話す機会があった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書の書面を用いて丁寧に説明をしている。ご家族には納得して頂き、不安のないように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で介護相談員は来園されていない。利用者からは常に意見を頂いている。家族へは毎月、手紙と写真を送っている。いつでもご意見を頂けるようにしている。	意思表示の難しい利用者があるが問い掛けに対する表情や行動から思いを受け止めるようにしている。家族の面会は窓越しでの面会が続いていたが、10月より対面での面会を再開し、ワクチン2回接種済み条件に事前に連絡を頂き、マスク、検温、消毒等の感染対策を取った上で15分以内の面会を行っている。毎月のホームの様子は行事報告を中心に手紙にし、利用者一人ひとりの写真も添え、毎月、請求書に同封し家族にお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見や提案を聞き、健全な運営に反映する努力をしている。	月1回スタッフ会議を行い、利用者一人ひとりの状況報告、提案・業務改善等の話し合いを行っている。全員の出席が難しいことから事前に意見や要望等を挙げてもらい会議の中で話し合い、出席出来ない職員に対しては申し送りで徹底するようにしている。年度の自己目標を立て半年に1回それに対する自己評価を行い、管理者による個人面談も行い、評価とスキルアップに繋げている。また、法人として1年に1回職員のストレスチェックが外部機関により実施され、職員のメンタルヘルスにも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各々に役割分担があり責任を持って遂行してもらっている。希望者には資格取得に向けた支援をしている。職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で外部研修には行けなかった。法人内では毎月研修をしている。経験豊富な職員は、他の職員に助言をして人材育成に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他のGHとオンライン会議を行い、情報交換をしている。コロナ禍において、相互訪問はできていない。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前にご本人の意見をお聞きして、訴えや希望をその方に合ったサービスに反映出来る様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望をお聞きして、初期の段階から安心して頂けるように努めている。信頼して頂ける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階ではまず本人と家族の話をよく聞いている。その時に必要な支援を決定して対応している。職員間での情報を共有して、随時ケアを見直している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者に寄り添い、傾聴、受容、共感の姿勢をとっている。利用者に安心して頂ける関係を築けるように努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には利用者の様子について、手紙と写真を毎月送付している。変化時はその都度報告しており、対応について意見をお聞いている。面会についてはコロナ禍なので、窓越し面会で対応した。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において面会に制限があるが、手紙などGHからの情報を発信している。	平常時であれば友人やお孫さんの来訪があるが、現在はコロナの影響を受け自粛状態が続いている。年末には職員がお手伝いをして年賀状を作成し家族に発送予定である。日用雑貨品等、欲しい物は担当職員が代わって買い物に出掛け要望に応えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方が自由に交流出来るように、席の配置に配慮している。利用者にとって居心地の良い場所を作り、生活が楽しめる環境作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば対応している。住み替え等でGH契約終了時には、利用者と家族へのフォローをして必要な情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いを汲み取れるように日々関わり、お話を聞いている。ご本人の意向に沿ったケアを心掛けている。困難な場合は、ご本人の目線に立って、より良い支援が出来るように努力している。	殆どの利用者は思いを伝えられる状況にあり、その日の着る衣類や食べ物、食事レクリエーション等、幾つか提案をして選んでいただくようにしている。アットホームな雰囲気大切に、1対1で話をする時間を多く取り、気づいた事柄は介護日誌、特に「健康状態、排便等」に記載の上申し送り確認し、日々の業務の中で意向に沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族の話をお聞きしている。フェイスシートや関係者などから情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士で、日々情報交換をしている。連絡ノートがあり、必ず目を通して。体調の変化時はすぐ対応出来るようにしている。日々利用者の状態を観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心として、本人、家族、関係者の希望や意見を反映した計画を作成している。定期的に職員からも意見や提案を聞いている。	職員は2名の利用者を担当し、居室の整理、足りない物の補充等をしている。月1回、担当職員がモニタリングを行い、それを基にカンファレンスで話し合い、家族の希望は来訪時に聞きケアマネージャーがプラン作成を行っている。入居時はケアマネージャーが状況確認の上暫定プランを作成し、様子を見て通常のプラン作成に繋げ、基本的には6ヶ月に1回の見直しを行い、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行い、利用者一人ひとりに合った支援をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者の様子を個人記録に残している。職員は必ず目を通して日々の支援に繋げている。細かい事を送る連絡ノートがあり、よりキメ細かい対応をしていく仕組みがある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望には可能な限り対応している。利用者1人1人のニーズに合った支援を心掛けている。		

グループホームにしうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍においてボランティア受け入れは出来なかった。状況が落ち着いたら、順次受け入れていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望されるかかりつけ医となっている。各医療機関からの情報は個人の記録と共に保管して、職員間で共有している。	入居時にホームとしての医療方針を説明している。現在は全利用者がホーム協力医の月1回の往診で対応している。また、月3回契約の訪問看護師の来訪があり、利用者の健康管理と医師との連携を取り24時間オンコールの体制が取られている。歯科については必要に応じ家族の受診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を利用している。職員は利用者の状態を観察し必要に応じて相談して、変化時は迅速に対応出来る様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には医療関係者と十分に情報交換をして、出来るだけ早期に退院出来る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した方がおり、家族の意向を確認してより設備が整った特養への住み替えを行った。ご本人、家族の希望に添えるように、その都度確認している。	重度化した際の指針があり、入居時に希望を聞き、説明も行い、同意書にサインを頂いている。食事を摂ることが難しい状態になり終末期を迎えた時には家族、医師、訪問看護師、ホームで話し合いの場を持ち家族の意向を確認の上、医師の指示の下、改めて「看取り同意書」にサインを頂き、医療行為を必要としない範囲で看取り支援を行っている。この1年以内で2人の看取りを行い、利用者も共に最期のお見送りをしたという。また、年1回、法人丸子ブロックのターミナル委員会の委員が中心となり看取り研修会を行い、看取り後はケアマネジャーを中心に振り返りの機会を設け次回に繋げるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には初期対応が出来る様に勉強している。対応マニュアルを用意している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	R3年・8月大雨の際に安全な場所に避難した。(13日から16日)法人内の協力があり、スムーズに避難出来た。消防訓練は年2回(7月)・11月)実施している。	年2回防災訓練を実施している。7月には土砂災害想定避難訓練を行い車に乗り込み避難体制の確認を行った。11月には火災想定訓練を行い、利用者全員が外へ移動しての避難訓練と消火器を2台使用しての消火訓練、通報訓練等を行った。本年、8月の大雨の際には法人本部まで全員無事に避難することが出来たという。備蓄は「水」「食料」等が3日分準備されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	集団生活においてプライバシーが厳守されているとは言えない所もあるが1人1人の人格を尊重した対応(言葉遣いや行動)をするように努めている。	言葉遣いには特に気配りをし、利用者の尊厳を守り、わかりやすくはっきりとした言葉で話しかけるよう心掛けている。更に「ちょっと待って」等、命令口調にならないよう徹底している。声がけは希望に合わせ苗字か名前に「さん」付けでお呼びしている。また、入室の際にはノックと声掛けを忘れないようにしている。年1回、接遇の研修会を行いプライバシーに対する意識を高め支援に当たっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で本人の希望を引き出せる様なアプローチをしている。本人が選択が出来る様な工夫を働かせている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて職員は動くようにしている。利用者が何をしたいのか、日々の生活から観察をして、本人の希望を引き出す様に努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装についてはご本人の希望や好みに沿って提供している。散髪は2ヶ月毎に1回理髪店が来園して対応している。(本人の好みを聞きながらカットする)			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1～2回食事企画を行い、季節を感じて頂けるメニューを提供している。利用者の希望も取り入れている。料理の下ごしらえから片付けまで利用者と一緒にしている。	自力で摂取できる方が大半で、また、一部介助の方が若干名という状況で、職員と共に一家団楽の食事を楽しんでいる。献立は本部の栄養士が立てたものを用い、食材も本部へ発注し業者より食材が配達され職員が調理しお出ししている。月1回は食事レクリエーションを行い、「ラーメン」「餃子」「お好み焼き」等を作り楽しんでいる。更に、希望を聞き、時折「お弁当」をテイクアウトしたり、土用の丑の日には「鰻」を味わっている。また、正月やクリスマスには季節に合わせた料理をお出しし季節感も味わえるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立になっている。量や水分も計測して記録している。1人1人の運動量に合わせて提供している。食事形態にも配慮して食べやすいように工夫をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの重要性を学んでいる。食後は必ず口腔ケアを行っている。声掛け見守りを行い、支援の必要な方には対応して口腔内の清潔保持に努めている。			

グループホームにしうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握できる様にチェック表を用いている。必要に応じて誘導している。パッド等は個々にあった物を検討使用して経済的になるように配慮している。(日中と夜間の使い分けなど)	自立の方と全介助の方がそれぞれ若干名で、一部介助の方が大半という状況である。職員は利用者一人ひとりのパターンを把握しており、一人ひとりの状況に合わせ声掛けをし排泄に繋げている。排泄記録は排泄表と介護日誌に残し、情報を共有している。また、排便促進を図るべく今年から朝「ゴボウ茶」を取り入れ、おやつ、食事の時にはお茶を中心にスポーツドリンク等も飲み、1日の水分摂取目標1,000cc以上に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならない様に食事、水分、運動など出来る事を行っている。個々の排便パターンもチェックしている。下剤、整腸剤は訪看とDRに相談して処方して頂いている。排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴表に沿って実施しているが、利用者の状況によって柔軟な対応をしている。利用者が快適に入浴を楽しめるように工夫をしている。(音楽を流すなど)	全利用者が何らかの介助が必要な状況である。天然温泉かけ流しの広い浴槽でゆったりとした入浴を楽しんでいる。全介助の方が若干名おり職員の二人介助で入浴されている。拒否の方がいるが音楽を掛けたり誘い方に工夫をしたり、他の利用者と2名で入浴したりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のリズムに合わせた対応をしている。個室でゆっくり休めるよう環境整備している。(寝具や室内温度等)日中は運動や散歩も取り入れて夜間は安眠出来る様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳と薬の詳細ファイルがあり、職員は内容を把握している。状況の変化がある場合は医療と直ぐに連携をとっている。記録にも残して情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の嗜好に合わせたレクリエーション(塗り絵・歌・パズル・本)など提供している。生活の中で職員と一緒に家事も行っている。個々の得意な分野で活躍出来る場を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍において外部との自由な交流は出来なかった。実行可能な事は積極的に行った。(事業所内の職員のみでのドライブ外出、野外散歩など)	外出時、自力歩行の方が三分の二、車いす使用の方が三分の一という状況である。天気の良い日にはホームの周りを散歩している。ホーム入り口の道路沿に桜並木が並んでいるので春にはお花見を楽しんでいる。コロナ禍で外出が制約を受けているが感染対策を取った上で併設デイサービスの送迎車を借用し、春の「花桃見物」、6月の「バラ園」見学、「ワイン工場」見学、10月には「紅葉見物」等々、主に車窓より季節感を味わい楽しいひと時を過ごしている。コロナ収束後にはOBボランティアの協力も頂き、積極的に外出レクリエーションを行う予定である。	

グループホームにいうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理をしている利用者はいない。日常生活で必要な物については家族や職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればお貸しする。今のところ希望は無い。利用者には家族からのメッセージをお渡しした。(用紙はこちらで用意して、家族にかいてもらい、敬老の日にお渡しした)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が快適に暮らせる環境作りをしている。利用者が作成した季節の装飾品や行事の写真などを飾っている。季節の花も置いている。トイレ、居室など場所が分かりやすいように張り紙なども工夫をしている。	一日の大半を過ごす食堂兼ホールには3つの食事テーブルや大きなソファ、一部小上がりの畳スペースが設けられている。壁には1年の活動の様子を撮影した写真が数多く飾られている。また、職員と利用者が共に生けた季節の花が飾られ、季節感が感じられる。廊下の片隅の2ヶ所にはソファが置かれ、腰掛け、寛いでいる利用者を垣間見ることができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に居心地の良い場所がある。そこで寛げる様に提供している。(寛げるソファなど)席の配置についても考慮して快適に過ごしてもらえる場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地良い居室作りに努めている。好きな物に囲まれて安心して過ごせる環境作りをしている。(好きな動物・家族の写真・手紙など)	整理整頓が行き届いた居室には大きなクローゼット設置されており暮らし易い造りとなっている。持ち込みは自由で、家族と相談の上使い慣れた家具、イス、テーブル等が持ち込まれ、壁には家族の写真、職員から贈られた誕生日や敬老の日のお祝いカードが飾られ、自由に過ごせる場となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が分かりやすい表示をしている。園内はバリアフリーで廊下には手摺りがある。それぞれの居室前には見やすい表示(利用者の目線で)して、分かる工夫をしている。利用者の残存機能を活かせる環境作りに努めている。		